News Release

湧く想い、沸かせる未来。
SHIZGAS
静岡ガスグループ

2026 年 10 月 30 日

「富士山バイオマス乾式メタン発酵プラント」運転開始

乳牛糞などを廃液ゼロで資源循環、静岡県富士宮市朝霧地区

静岡ガス＆パワー株式会社（代表取締役 取締役社長 藤田猛）が出資する朝霧バイオガス合同会社および朝霧バイオパワー合同会社は 10 月 21 日、静岡県富士宮市根原字宝山において「富士山バイオマス乾式メタン発酵プラント（以下『本プラント』）」の運転を開始しました。

本プラントは、日本有数の酪農地帯である静岡県富士宮市朝霧地区において排出された乳牛糞を主な原料としています。畜産廃棄物は通常堆肥化処理されますが、本プラントは堆肥製造施設の前処理施設として農産物処理加工を行うとともに、メタン発酵処理によって発生する副産物のバイオガスを回収して、熱供給および発電に利用します。また、発電設備で発生する排熱は、堆肥製造施設やメタン発酵設備などの運転に再利用し、発電した電気は FIT 制度（固定価格買取制度）により売電します。



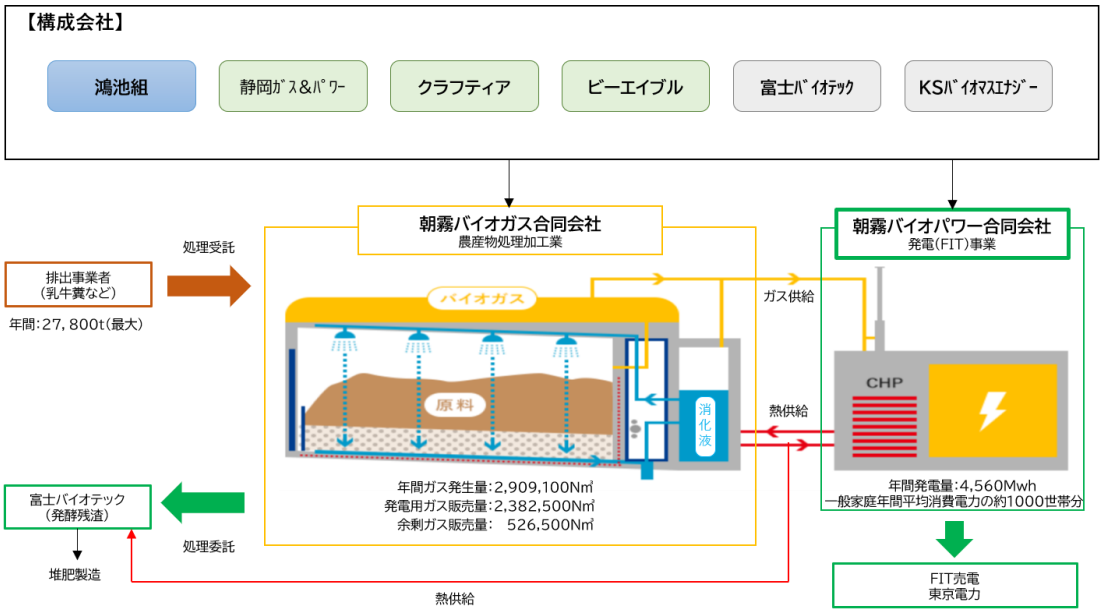
（本プラントの外観）

静岡ガスグループは、本プラントの運営をはじめとした再生可能エネルギー事業を通じて、地域資源の有効活用を推進し、カーボンニュートラル社会の実現と地域社会の発展に貢献してまいります。

【本プラントの概要】

事業会社	朝霧バイオガス合同会社（産廃事業会社） 朝霧バイオパワー合同会社（発電事業会社）
出資会社	株式会社鴻池組、株式会社クラフティア、静岡ガス&パワー株式会社、株式会社ビーエイブル、富士バイオテック株式会社、株式会社 KS バイオマスエナジー
所在地	静岡県富士宮市根原字宝山（富士バイオテック株式会社敷地内）
事業内容	朝霧バイオガス合同会社　：農産物処理加工（主に乳牛糞など） 朝霧バイオパワー合同会社：バイオガス発電
設備	発酵槽　：ドイツ BEKON 社製 バッチ式乾式メタン発酵設備※1 発電設備：ドイツ 2G 社製 CHP ガスエンジン発電装置
発電出力	546kW
年間発電量（計画）	4,560MWh（一般家庭年間平均消費電力量の約 1000 世帯分）

※1　国内で主流の湿式メタン発酵方式とは異なり、バッチ式乾式メタン発酵方式は前処理設備、排水設備が不要。消化液を循環利用するため原則として外部排水がないことが特徴。



（本プラントの事業スキーム図※2）

※2　株式会社鴻池組のプレスリリース（2026 年 10 月 21 発信）より引用

以上